

英語 (中1)

1 通過率

(1) 全体

平均通過率 (%)			対前年度比
平成17年度	平成18年度	平成19年度	
(55.7%) ※	68.5%	69.1%	+0.6

※平成18年度より採点の観点が変わったため

- ほぼ昨年度と同じ通過率であり、基礎の定着が図られつつある。
- 言語や文化に知識理解の観点が大きく伸びている一方、例年出題している類似問題に向上が見られないなどの課題が残る

(2) 内容・領域別

	平均通過率 (%)			対前年比
	平成17年度	平成18年度	平成19年度	
聞くこと	64.6%	78.0%	74.8%	-3.2
話すこと (44.6%) ※	67.2%	62.7%	62.7%	-4.5
読むこと	66.1%	67.4%	71.3%	+3.9
書くこと (36.1%) ※	61.8%	62.8%	62.8%	+1.0

※「話すこと」は間接的にみた結果である。

- 「聞くこと」に関する問題については、基本的な対話文の「応答問題」の通過率が18年度68.4%から、19年度62.4%に上下がっている。三人称や疑問詞を含む疑問文に対する応答が特に低い。「詳細理解問題」、「概要・要点理解問題」は、それぞれ81.4%、88.7%であり定着が図られている。
- 「読むこと」に関する問題は、昨年度より4ポイント向上しており、身近な人の紹介や自己紹介の場については、理解が進んできている。
- 「書くこと」に関しては、「文構造理解問題」の通過率が18年度53.9%から19年度62.7%に上がっているが、昨年度とほぼ同じ内容の出題であることから考察すると、代名詞の使い方、否定文の構造、名詞を伴う疑問詞の使い方などで正確さに欠ける点が見られ一層の指導が必要である。

(3) 観点別

	平均通過率 (%)			対前年比
	平成17年度	平成18年度	平成19年度	
表現	(37.2%) ※	63.7%	62.7%	-1.0
理解	62.7%	72.7%	73.0%	+0.3
言語や文化に関する知識・理解	(48.9%) ※	54.7%	65.3%	+10.6

- 「表現」の観点の通過率は、「書くことに」については全般的に向上したものの間接的に話す力を見る「応答問題」(聞くこと)が低下したため、昨年度並みとなっている。昨年に引き続き出題した「トピック指定問題」(記述式の初歩的な自己紹介)については、72.6%と概ね定着してきた。
- 「理解」の観点については、場面設定が自己紹介の場面や、あいさつ、友人の紹介など、作年に引き続き生徒に把握しやすい内容であり概ね定着していると考えられる。
- 「言語や文化に関する知識・理解」の観点は、全般的に向上した。昨年度と同一の「言語使用に関する知識理解問題」における疑問詞を用いた対話形式を問う問題や3人称の否定文を組み立てる問題などの通過率が低い。また英文を正しく並び替える問題の「文構造理解問題」の通過率が依然低い傾向にある。毎日の授業で頻繁使われる英文"How are you?"や"What time is it"の並び替えも、それぞれ68.5%、66.0%の理解にとどまっている。

2 通過率が低い問題 (昨年度の類似問題も含む)

- ⑨ (3) 「私の兄はサッカーが好きではない。」という内容を表す英文に適切な語を入れて
My brother (doesn't) (like) soccer.の英文を完成させる問題
(H18 13.9%) → (30.3%)
- ⑦ (3) "What do you have in your bag?"を受けて、適切な応答"I have a book."を選択する問題
(H18 13.9%) → (35.6%)
- ⑧ (2) 「あなたの帽子すてきですね。」という発話に対して、Butに続き4個の単語を並び替えて、"(But) it is not new."という英文を作る問題
(H18 33.7%) → (40.4%)
- ⑨ (3) 「あなたに会えてうれしい。」という内容を表す英文に適切な語を入れて
Nice (to) (meet) you. の英文を完成させる問題
(48.7%)

<類似問題の傾向>

- ① (3) "Is Ken your brother?"という質問を聞き取り、適する答えの文を選ぶ問題
(H18 54.4%) → (42.9%)
- ① (5) "Who is that girl?"という質問を聞き取り、適する答えの文を選ぶ問題
(H18 57.9%) → (48.2%)
- ⑩ 自己紹介の文を3文以上書く問題
(H18 60.8%) → (72.6%)
- 無答率 (H18 9.7%) → (8.4%)

【 通過率が低い問題 ① 】

○ 身近な人について描写したり、紹介したりする表現の能力をみる。 ○ 日本語の内容に合うように適する英文を書く能力を見る。	通過率 30.3%
--	--------------

9) 次の(1)～(3)の場面に合う英文になるように、()に適する英語を1語ずつ書き英文を完成させなさい。
(3) 「私の兄はサッカーが好きではない。」と言いたいとき
My brother (doesn't) (like) soccer.

誤答傾向

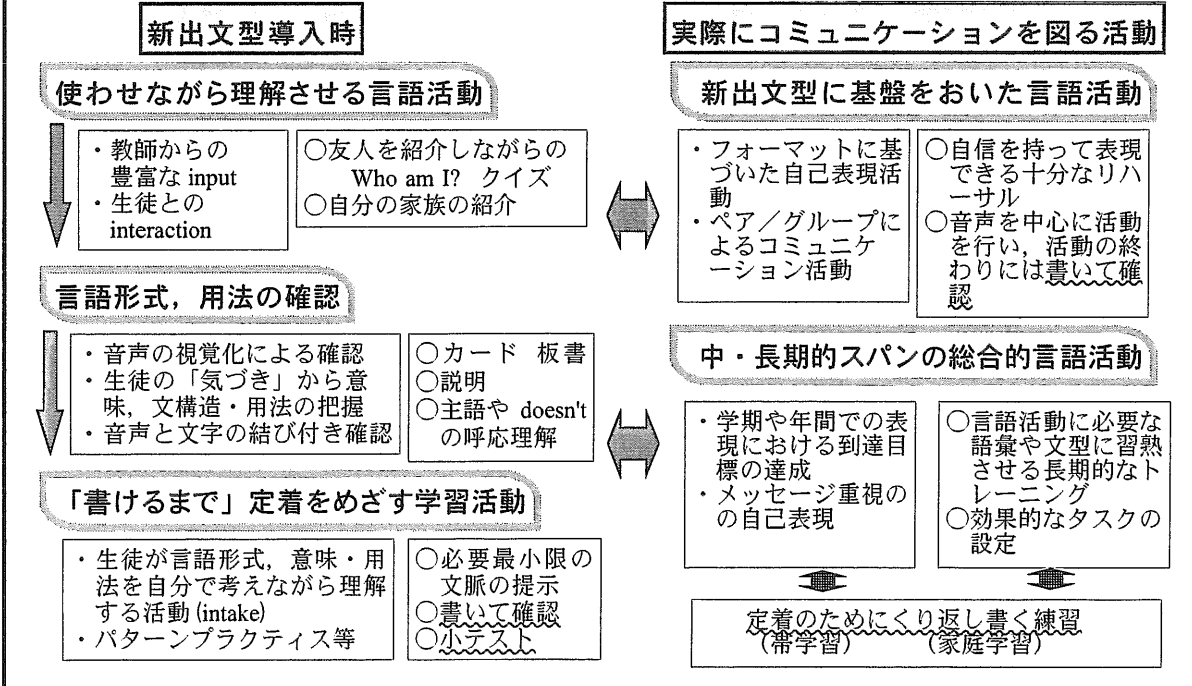
〔誤答例〕 ※ 昨年度とほぼ同一の問題である。
don't like / not like / does not / isn't like / doesn't likes /
〔通過率の低い要因〕

- ・ 身近に人々について紹介する言語活動や定着のための学習が不足している。
- ・ 主語により一般動詞にSをつける肯定文の形には、慣れていると思われるが、"doesn't"を用いた否定文の構造に理解が不十分であると思われる。
- ・ 「好きではない」という日本語から、"don't like"という最も初歩的な形で解答してしまい、主語との関係を意識していないと考えられる。
- ・ それぞれの欄に"does"" not" と2語を記入し、動詞を抜いてしまっていることから基本的な文の組み立てについての理解が図られていない。



改善策

- 既習の学習事項が、生徒の記憶に定着するには、生徒自身が学んだことを活用しながらコミュニケーションを図る場面を設定し、くり返し使わせる必要がある。上記の誤答傾向に見られるように、生徒はこれまでの学習事項を断片的に理解しながらもそれらを活用しようとしていることから基本文型を身につけさせるため次の2点に留意したい。
- 指導者は新出文型（文法）の導入時に生徒に使わせながら、言語形式や言葉の働き及び表現の適切さなど整理し、最終的には定着を図るドリル等の学習活動を行い確実な知識理解の定着まで導く指導がまず必要である。
- 次に、実際に生徒が自分の意思で学んだ新出文型や語句を使う活動を具体的に提示する。気をつけなければならないのは、音声を中心としたコミュニケーション活動であっても、最終的には文字として認識させ、発話したことを正確に書けるようまで指導することである。



【 通過率が低い問題 ② 】

○ 対話文における基本的な応答パターンを読んで理解できるかをみる。 ○ 疑問詞Whatを用いた疑問文とその応答についての知識理解をみる。	通過率 35.6%
---	--------------

7 次の(1)～(3)のそれぞれの対話文が成立するように、に入る最も適当な英文を、ア～エの中から一つずつ選び、その記号を書きなさい。
 (3) A: What do you have in your bag?
 B: ア Yes, I do. イ It's my bag.
 (正解) ウ (注) bag: かばん ウ I have a book. エ Yes, I have a bag.

○ 対話文における基本的な応答パターンを聞いて理解できるかをみる。 ○ 疑問詞Whoを用いた疑問文とその応答についての知識理解をみる。	通過率 48.2%
--	--------------

1 次の(1)～(5)の話しかけに対する最も適切な答え方はどれですか。ア～エの中から一つずつ選び、その記号を書きなさい。
 (5) CD音声 Who is that girl? ア He is my father. イ That student likes tennis.
 ウ She is my friend, Lisa. エ She has a pen in her bag.
 (正解) ウ

○ 日常会話で高い頻度で用いられる「主語が3人称の Be 動詞の疑問文に対する応答」の定着度をみる。(昨年度との類似問題) ○ Is~?に対する応答 No, ~isn't を理解をみる。	通過率 42.9%
--	--------------

1 次の問題のうち、英語の話しかけに対する最も適切な答え方はどれですか。(聞き取り)
 (3) (CD音声) Is Ken your brother?
 ア Yes, I am. I'm Ken. イ No, I'm not. I'm not Ken.
 ウ No, he doesn't. He's OK. エ No, he isn't. He's my friend. (正解) エ

誤答傾向

- ・ 昨年度と同一の問題である。
- ・ 場面をイメージできず、疑問文の形から答えを選択している。"do you ~?"であるために、yes-noの形式で答えてしまっている。
- ・ 疑問詞を伴う対話に不慣れであると考えられる。
- ・ 第三者について対話が行われている場面の把握できていないと思われる。
- ・ 代名詞を用いた質問の文を実際に使用する練習が不十分であると考えられる。



改善方

- 基本的な疑問文、否定文および疑問詞については、知識理解に留まらず使いながら定着させる方法がより効率的である。ペアによる対話練習などを通し、短時間でも長期間練習し「使い慣れる」ことで、応答パターンに習熟し代名詞等の運用力も向上すると考えられる。

基本対話の理解の確認

- 意味が分かっているか。
→ 使用場面、働き、表現形式
- 読むことができるか。
→ 正確に読むことができるか。
- 書くことができるか。
→ 正しく、コピーさせる。

生徒の日常に即した英問例

How are you?
 Are you OK now?
 Is your sister a high school student?
 Do you cook dinner on Sunday?
 Does your brother like soccer?
 Who is that teacher?
 What time did you have lunch this morning?
 What do you do for your mother every day?
 What do you have in your bag?
 What time is it now?
 How many books do you have?

繰り返しの口頭練習

- 生徒の負担とならないように短い対話文の練習を行う。
- 毎時間の Warm Up 時に帯学習として取り入れる。
- 制限時間を決めたり、ペアで競わせるなど活動を工夫する。

書く活動につなげる

- 音声において十分に定着が図られた後、発話したことを正確に書けるようにする必要がある。

【 通過率が低い問題 ③ 】

○ 逆接の接続詞文法構造を理解し、英語を順序正しく書く力をみる。 ○ Be 動詞を含む否定文および代名詞についての知識理解を見る。	通過率 40.4%
--	--------------

⑧ 次の問題のうち、(1)～(3)については [] に適する英文になるように、[] 内の語(句)を並べかえなさい。
 (2) A: Your cap is nice. []
 B: Thank you. But []. [ア not イ it ウ new エ is]
 (正解) (But) it is not new.

誤答傾向
 × (But) is it not new × (But) it is new not × (But) not it is new
 ・ 昨年度と同一の問題である。誤答傾向も同様である
 ・ 接続詞 but のある重文における主語の認識が不十分であると考えられる。
 ・ 主語 "it" については、"Is this ~?" 等の質問に対する応答での使用には慣れているが、代名詞としての理解が図られていないことが伺える。

○ もっとも基本的な自己表現である自己紹介の英文を書く能力を内容の伝達と表記の正確さという2観点からみる。 ○ 指定されたトピックで、自分で表現する内容を考える力をみる。	通過率 72.6%
--	--------------

⑩ 新しく来た ALT の先生に自己紹介をすることになりました。自己紹介の英文を英語で3文以上書きなさい。ただし、最初の文は My name に続けて書きなさい。なお、[] の項目を参考にしても良い。(ピリオドやコンマなどの符号や大文字、小文字の使い方に注意して書くこと)

家族 趣味 スポーツ 楽器 教科 食べ物 など

My name _____

(通過率詳細)

1文を正確に書けた生徒	78.2%
2文を正確に書けた生徒	71.5%
3文を正確に書けた生徒	55.8%
※「細かいミスはあるが、内容は伝わる」観点では、順に 83.2%、79.8%、67.0%	

誤答傾向
 ※ 昨年度と同一問題である。
 × My name ~~~~~ Yuta. My name is Mik. (is の欠落、名前のスペリングミス)
 × I ~~~~~ from Kanoya. I am play ~~~~~ piano. (動詞の欠落、重複、冠詞の欠落)
 I don't sports. (大文字小文字、複数の使い分け)
 × I like japanese. I like dog (大文字小文字、複数の使い分け)
 ・ 英文の基本的な形、特に主語と動詞関係や語順の理解が不十分である。
 ・ 音声表現での意思伝達と正確な文字表現の関係があいまいなままである。



改善方

- 「内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力」がついていないという指摘はこれまでも行われているが、自分の考えや気持ちを適切に書くことは容易ではない。
- 基本的なスペリング等の言語形式の正確さにも増して、伝えるメッセージを生徒が持っているかについても十分留意したい。
- この時期の生徒に適する表現内容として「自己紹介を書く」「家族や友達について書く」などが考えられるが、生徒にどの程度の英文を書かせたいか明確な到達目標を定め学期や年間を通して長期的に指導する必要がある。

到達目標モデル文の設定

生徒の実態に応じて、書く内容(トピック)と量(英文数)を設定

「自己紹介を書こう」(例)
 My name is Asuka Miyamoto.
 I like my school.
 I am in the track and field club.
 Running is so exciting.

必要な語彙・文型

意図的計画的な指導

- 身近な話題であっても、既習語句だけでは表現できない((例)下線部の語)ため、生徒にとって必要な語句を調査整理する。
- トピックに適する表現形式(文型等)を生徒に無理の範囲で選定する。

- 単位時間内ですべてを完成させるのではなく、数か月、学期の単位でモデル文に近づくよう指導していく。
- 生徒が自分の使用する文型・語句について自信を持てるよう口頭による練習を十分に行わせる。
- 音声で定着したことを、正確に書けるよう定期的に形成的評価等を行う。(ノート、小テスト)

英語 (中2)

1 通過率

(1) 全体

平均通過率 (%)			対前年度比
平成17年度	平成18年度	平成19年度	
(52.6) %	58.3 %	59.0 %	+0.7

- 若干の改善はみられるが、基礎的・基本的事項の定着は不十分である。
- 通過率7割を超える生徒が約3割であるのに対して、通過率5割に満たない生徒は4割近くに上り、成績のばらつきが大きい。

(2) 内容・領域別

	平均通過率 (%)			対前年比
	平成17年度	平成18年度	平成19年度	
聞くこと	60.3 %	61.0 %	54.4 %	-6.6
話すこと	(34.8) %	51.7 %	48.7 %	-3.0
読むこと	65.0 %	68.5 %	73.4 %	+4.9
書くこと	(32.7) %	48.7 %	52.5 %	+3.8

※「話すこと」は間接的に みた結果である。

- 「聞くこと」に関する基本的な対話文の「応答問題」の通過率が、低下している。"Welcome to ABC store. Can I help you?"という呼びかけに、"No, thank you."と答えたり、"Let's swim in the pool."の勧誘の表現に対して承諾の返事"Great."を当てはめたりするなど場面や文脈を重視した受け答えの通過率が29.4%、44.5%と低い。
- 「読むこと」に関する問題は、昨年度より高い通過率を示しており、英文の内容に合う絵を選択する詳細理解問題は9割近くの通過率である。今後は、100語前後のまとまりのある英文を読み、概要・要点を把握する力(通過率63.6%)を育成する方法が必要である。
- 「書くこと」に関しては、基本的な語の運用力を試す問題の通過率が低い。日本語で示された内容に対して適切な単語を書き入れる問題では、助動詞"doesn't"をきちんと書けた生徒は36.4%、"listened"については、25.3%にとどまっている。語順を問う「文構造理解問題」の通過率が59.3%と向上傾向にあるものの依然低い。

(3) 観点別

	平均通過率 (%)			対前年比
	平成17年度	平成18年度	平成19年度	
表現	(51.8) %	51.8 %	51.3 %	-0.5
理解	64.4 %	64.4 %	63.1 %	-1.3
言語や文化に関する知識・理解	(57.8) %	57.8 %	65.4 %	+7.6

- 聞いたり、読んだりして内容をとらえることは、授業中の内容理解の活動としてよく行われており、概ね定着しつつある。しかしながら、「理解」「言語の対する知識・理解」の通過率に対して、「表現」の通過率が低い結果となっている。
- 「表現」については、基礎的な語を使って表現する力や英文を自分で組み立てる力が不十分である。これは、授業中の言語活動で用いた語句や文型が正確な知識・理解に結びついていないと考えられる。特に、言語の使用場面に合う語句を適切な語形変化を加えてあらわすことについて十分に定着させる必要がある。
- 自分の好きなことについて3文書く自由英作文の問題では、3文を正確に書ける生徒が29.5%にとどまっている。長期的な視野で生徒が自信を持って表現できる語いや英文を定着させる練習も必要である。

2 通過率が低い問題

- 10 (2) 「日本の音楽を聞いた。」という内容に合うように listened を書き入れる問題 (25.3 %)
- 1 (3) "Welcome to ABC store. Can I help you?" との呼びかけに適する答え"No, thank you."を選択する問題 (29.4 %)
- 10 (3) 「日本語があまり分からない。」という内容に合うように doesn't を書き入れる問題 (36.4 %)
- 9 (5) 疑問詞を含む表現を What time did you get up this morning? と並び替える問題 H18 (29.4 %) → (38.9 %)
- 1 (1) "Let's swim in the pool." との呼びかけに適する答え"Great!"を選択する問題 (44.5 %)
- 1 (4) "I'll go to a movie on Saturday. What are you going to do this Saturday?" との質問に適する答え"I'm going to visit my friend."を選択する問題 (47.6 %)

【 通過率が低い問題 ① 】

○ 身近な人について描写したり，紹介したりする表現の能力をみる。 ○ 日本語の内容に合うように適する語句を書く能力を見る。	通過率（3問平均） 38.6%
--	--------------------

10 友達の Sam について説明している (1)～(3) の内容をもとに，() に適する英語を書き入れ，Sam を紹介する文を完成させなさい。

<p>〈友人 Sam について〉 カナダの出身である。</p> <p>(1) 彼は日本語はあまり分らないが，日本の音楽が好きだ。</p> <p>(2) 彼は，先週，コンサートに行き，日本の音楽を聞いた。</p> <p>(3) 私は，サムと一緒に文化祭で日本の歌を歌うつもりだ。</p>	<p>Sam is my friend. He is from Canada.</p> <p>(1) He (doesn't) know Japanese very well, but he likes Japanese music.</p> <p>(2) He went to a concert and (listened) to Japanese music last week.</p> <p>(3) I (will) sing some Japanese songs with him for the school festival.</p>	<p>通過率</p> <p>(36.4%)</p> <p>(25.3%)</p> <p>(54.9%)</p>
--	--	---

誤答傾向

〔誤答例〕

- (1) don't / is / isn't
(2) listen / go / going / × risten などスペリングミス

〔通過率の低い要因〕

- ・ (1) については，第1学年で学ぶ一般動詞の基本的な否定文の助動詞 doesn't 形である。主語と動詞の関係に意識して正しい形を導き出せないのは，2学年になり友人や身近な人について表現する活動が十分に行われないことが考えられる。
- ・ (2) については，日常的な表現で頻繁に使われ規則変化動詞 listened が身についているかを見た。現在形"listen"を書き入れたり，ミススペリングをしたりする傾向が見られる。音声として表現はできても，正しく文字で表現する練習が不足している。
- ・ (3) については，メモから今後の予定を読み取り，適切な助動詞 will を使えるかをみたが，生徒の半数近くは理解不足である。



改善策

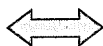
- 既習の学習事項を定着させるために，生徒自身が学んだことを活用しながらコミュニケーションを図る場面を設定し，くり返し使わせる必要がある。例えば，「先週の出来事について話してみよう」「2学期にやってみたいことは」といったトピックで対話練習などを行わせると効果的である。このようなトピックを設定することで，動詞の過去形や，助動詞"will"，"have to"などを使う必然性が生じる。
- 中学2年は，現在に加え過去や未来の時制，助動詞等の活用により表現の幅が広がる時期であるが，英文の基本構造が十分に理解できていない生徒にとっては混乱が生じていることが考えられる。
- よって，メッセージ重視のコミュニケーション活動を設定するとともに，基礎的な言語材料の定着を図る学習活動を生徒の理解を確認しながら行う必要がある。最初は，音声を中心の練習となるが，言えるようになったことが最終的には正確に書けるように指導しなくてはならない。

コミュニケーションを図る活動

学んだことを活用することによる定着

動詞の過去形や，助動詞"will"，"have to"などを使う必然性が生じる対話練習や自己表現活動の設定

(例)
「先週の友達の出来事について話してみよう」
「2学期にやってみたいことは」
(メッセージ重視の活動)



言語活動の理解や練習を行う活動

くり返し反復による定着

- 動詞の活用に特化した練習
- 助動詞や動詞の時制を意識した基本文暗唱

体系付けることによる理解と定着

- 主語，動詞，目的語等の文構造を視覚化したり，例文を多く提示したりすることで，生徒に基本的な語順を把握させる。
- 最も基本となる文構造から，時制による語の挿入や動詞の語尾変化等を体系的に理解させる。

【 通過率が低い問題 ② 】

○ 対話の文脈を聞きいて理解する力をみる。 ○ 誘い、店員と客との基本的な対話表現、予定を尋ねる質問に対して適切に応答することができるかをみる。	通過率 (3問平均) 40.5%
---	---------------------

1 次の(1)～(4)の英語の話しかけに対する最も適切な答え方はどれですか。ア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。英文は2回くり返します。

(1) 【学校で】 放送スクリプト
 ア Yes, I am. Let's swim in the pool.
 イ Great!
 ウ How about you?
 エ Yes, I did. (正解イ) (誤答傾向 ア) 通過率 (44.5%)

(3) 【お店で】 放送スクリプト
 ア No, thank you. Welcome to ABC store. Can I help you?
 イ No, it's not mine.
 ウ Yes, I can help you.
 エ Me, too. (正解 ア) (誤答傾向 ウ) 通過率 (29.4%)

(4) 【教室で】 放送スクリプト
 ア It'll rain on Saturday. I'll go to a movie on Saturday.
What are you going to do this Saturday?
 イ I like tennis.
 ウ I'm going to visit my friend.
 エ My mother went shopping. (正解 ウ) (誤答傾向 ア) 通過率 (47.6%)

誤答傾向
 [通過率の低い要因]
 ○ Let's～という誘いに対して"OK""Yes"といった一つの形式で理解している。
 ○ Can I help you?という店員の問いかけに対してYesと応答するパターンで答えてしまい、文脈をとらえていない。
 ○ 誤答にアが多いことから、聞こえてきた Saturday が含まれている選択肢を選んでいいる。文脈をとらえていない。

○ 英文の応答に適する疑問文で表現できるかをみる。 ○ 疑問詞 what time についての知識理解をみる。	通過率 38.9%
--	--------------

9 次の対話の[]に適する英文になるように、[]内の語または語(句)を並べかえなさい。

(5) A: [] get up this morning?
 B: At six o'clock.
 [ア you イ time ウ did エ what] (正解) What time did you

誤答傾向
 [誤答例] ※昨年度とほぼ同一問題である。
 × What did you have time × Did you what time
 [通過率の低い要因]
 ○ 生徒には、"What did you ~?"や"Did you have ~?"という音声イメージが強く、文脈を考えずにその音声イメージにしたがって単語の並べ替えを行っている。
 ○ "what time"や"How long"など名詞や形容詞を伴う疑問詞の使い方が定着していない。



改善策

- 特定の言語使用場面における慣用表現については、教科書の該当部分で最も初歩的なパターンをロールプレイを交えて定着を図ることが必要であるが、覚えるだけに留まらず、相手の応答を変えたり、場面に変化を持たせたりしながら、文脈を理解し適切な表現ができるようにする練習も大切である。
- 疑問詞の含まれる英文に対する応答や、英問そのものの組み立てができない生徒が多いことから、授業の決まった時間帯を練習にあてるなどして実際に使う機会を増やす必要がある。その際、一往復の対話であっても、生徒自身の考えが取り入れられるようにしながら定着を図る必要がある。

慣用表現の取り扱い

・基本的なパターンのくり返しによる定着

+

・場面や相手の応答に応じた表現の指導

疑問詞等を含む英問英答

・生徒自身が、自分自身を表現できる英問英答の練習
 ・短時間でも継続的な指導を工夫する。
 ・音声イメージが定着した時点で説明を加える。

【 通過率が低い問題 ③ 】

<ul style="list-style-type: none"> ○ 選んだトピックについて、意味内容が伝わる英文を書くことができるかをみる。 ○ スペリング、符号、語形変化、代名詞の使用などが全て正確な英文を書くことができるかをみる。 	<p>通過率 53.7%</p>
--	-----------------------------

11 歌手、スポーツ、食べ物など、あなたの好きなものを何か一つ選び、そのものについて下に注意して英語で3文以上書きなさい。ただし、最初の文はI like に続けて書き始めなさい

○すべて英語で書き、ピリオドやコンマなどの符号や大文字、小文字の使い方に注意して書くこと
○同じ内容が改を繰り返さないよう書くこと (like～ を繰り返すなど)

<p>I like _____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>	<p>通過率</p> <p>1文を正確に書けた生徒 69.8%</p> <p>2文を正確に書けた生徒 48.0%</p> <p>3文を正確に書けた生徒 29.5%</p> <p>※「細かいミスはあるが、内容は伝わる」 観点からは順に77.3%, 57.6%, 39.9%</p>
---	--

誤答傾向

- × I like ~~~ play soccer. (to の欠落)
- × They ~~~ interesting. She ~~~ cute. (be 動詞の欠落)
- × basketball / speek / bery / pley (スペリングミス)
- × 無答 全く書かない生徒 (12.1%)

〔通過率の低い要因〕

- 英語で表現することに不慣れであり、何を書いたらよいか分からない生徒がいる。
- 日本語での発想に影響され、主語があいまいであったり、語順が不正確であったりする。
- 生徒が自信を持って書く基盤となる基本的な文型の定着が不十分である。
- 音声と文字の結びつきについての認識があいまいで正確に単語を書くことができない。

改善策

口頭での言語活動と書くことによる確認

- 日本語の語順の影響を受けた英文や品詞の区別ができていない英文が誤答例として多く見受けられることから、一文単位での英語の構文の理解ができていないことを示している。
- 多くの授業では、基本文導入の過程で、なにかしらのコミュニケーション活動は行われている。活動中のオーラルコミュニケーションにおいてはそのメッセージが伝わるかが重要視されるが、「主語と動詞」「数の呼応」「時制」などの正確さについては生徒自らが書くことで確認することができる。
- 音声で表現したことを、文字化し正確さを確認すること、基本的な語順やスペリングを定着させることが必要である。

3年間を見通した表現活動

- 上記の問題にあるように、まとまりのある一貫した複数の文を書く力の充実が求められているが、そのためには書くべき内容を自分で考えて、それを英語で表現する力が必要である。しかし、自分の好きなものについて日本語で考えられても、英語の語彙を知らなかったり、知っていても音声として内在化が図られていなかったりすれば、生徒は書こうとしない。無答率の高さはそのことを示している。
- 中学3年間を見通し、「何を」「どの程度」表現させたいかを長期的視野でとらえ、意図的、計画的な指導をする必要がある。

到達目標の設定

(例)「自分の好きなこと」について5文程度で表現できる。

- ・目標モデル文の提示
- ・必要となる語彙等調査

音声による内在化

目標モデル文に近づくよう、少しずつ表現する英文をふやす。

- ・帯学習として行う。
- ・ペア活動等で練習する。

実際に書く練習

生徒自身の英文を、実際に書いて、「正確さ」についての確認を行う。

- ・教師による指導・助言を行う。